

定年を迎える教授の特別寄稿

昭和大学の45年間の教育



小川 良雄

医学部 泌尿器科学講座 (昭和大学病院)
1975年4月昭和大学医学部に入学、1981年3月に卒業しました。4月に新築の銀色に輝く大学病院入院棟に新人医師として入った日を今でも忘れません。恩師、今村一男教授、吉田英機教授のもとで泌尿器科医として研鑽を積み上げていただきました。大学院修了後、東大医科研で人工透析、腎移植医療を学びま

した。出張病院で多くの手術を手掛け、大学に先駆けて膀胱全摘・回腸新膀胱造設術を施行しました。昭和大学病院に戻り最も感じたことは、メデイカルスタッフ、事務職員の方々のつながりの良さです。30年以上前から本学の特色であるチーム医療に通じる風通しの良さがあり、当時から患者さんのために真心を尽くす至誠一貫の精神が連続と現在まで続いていま

その後、竹田稔教授の生化学教室で基礎研究の手ほどきをうけ、1997年に米国Duke大学に留学いたしました。2007年から教授として泌尿器科学講座を14年間主宰させていただきました。現在は藤が丘病院、横浜市北部病院、江東豊洲病院の各特長を伸

退任にあたって



末木 博彦

医学部 皮膚科学講座 (昭和大学病院)

ばしつつ、講座全体で人事配置を行ってOne Showの泌尿器科学講座とすることができました。教育面では2008年から医学教育者のワークショップ検討委員会委員長を仰せつかり、他学部の多くの教育職員と交流を深めました。その後、M5試験委員長、教育委員長、医学部長の大役を仰せつかり学長教育に全力で注力しました。様々なことがありました。最も嬉しかったのは第112回医師国家試験で新卒100%合格を達成できたことです。教育についても小口理事長、片桐名誉学長、小出前学長、久光学長からご指導を賜り、教育推進室の皆様、教育委員会メンバー、学事部の職員の方々のご支援をいただいた賜物と深く感謝しております。4月からは、学校法人、医学部附属看護専門学校、リカレントカレッジでお世話になりました。45年間にわたり私を教育し、くれた昭和大学に心より御礼申し上げます。

持ちの橋本謙教授に憧れ皮膚科に入室しました。昭和大学では3人の教授で、Dr. Masahiro Yamamoto教授を受け、幅広い領域、考え方を身につける事ができました。その反面、各教授の専門分野、得意分野が様々で私自身のライフワークとしては至りません。前年の飯島正文教授から引き継いだ重症薬疹研究の中からH1V感染者以外にも見られる免疫再構築症候群の病態が明らかになり、2020年度から3年間日本医療研究開発機構から本症のバイオマーカー開発に研究費をいただける事になりました。退任後2年間はこの課題を完遂すべく余力を傾注いたしました。私の臨床医としてのキャリアは駆け出しの頃の大学病院N9病棟・東病院・藤が丘病院・東病院・N9病棟と片道ではなく往復することです。これはよく幸運なことですが、これほど幸甚な勤務医人生はなかったのではと感謝に堪えません。

Leading Edge



寺田 友昭

医学部 脳神経外科講座 (藤が丘病院)

昭和大学はこの40年間に大学として目覚ましい発展を遂げました。病院の新設や診療の充実が留まらず、医学教育のparaダイムシフト、国際化、統括研究推進センター(SURAC)の整備など目を見張ります。私も20年遅れて昭和大学に入り、たかたか羨むほどの昭和大学の今後の益々のご繁栄を祈念申し上げます。

治療機器がどんどん開発されております。藤が丘病院は脳神経血管内治療の分野の一つであり、常に新しいデバイス、新しい治療に携わることが出来ます。本年4月から横浜市北部病院の所属になりますが、北部、藤が丘の連携をさらに強め、神奈川の脳神経血管内治療のメッカとしてさらに精進してゆきたいと思っております。定年を迎えるにあたり、メスは置いて、手術はカッター一本に絞る、もう少しこの分野のleading edgeを歩いてゆきたいと思っております。とりあえずは、脳動脈奇形の経静脈的塞栓術の開発と普及、脳腫瘍に対する治療的塞栓術を研究テーマとして昭和から世界に発信できる仕事を継続してゆくつもりです。今後とも、御支援よろしくお願いたします。

定年退職を迎えて



村上 雅彦

医学部 外科学講座 消化器一般外科部門 (昭和大学病院 副院長)

1975年昭和大学医学部に入学し、外科医として40年のあわせた46年間を昭和大学人として過ごしました。Challenge・Reform・Innovationを大切に、モチ

ベーションの燃料として、反骨精神・固定概念の打破・教育を糧として努力してきました。入局後は、肝臓外科医を目指しましたが、14年目に内視鏡外科と出会い、高難度と言われる胸腔鏡下食道癌手術に魅了され食道外科医に方向転換しました。1996年に1例目を施行し外科医として本邦6人目し、昭和大学式胸腔鏡下食道癌根治術を完成し、第108回日本外科学会での一人として特別講演を行った事は感無量でした。2009年、昭和大学外科学講座消化器・一般外科部門教授、診療科

長を拝命しましたが、手術しか取り柄がない私を昭和大学が拾ってくれたと感謝しております。その際に、小口理事長・小出学長と目本一となることを約束してしまいました。導入時年間5例の食道癌手術は、2016年に年間100例を越え、2017年以降は年間120、130例と国内3位のEso-Gateとなり、私立・国立大学病院では1位の手術件数を達成し、ほぼ約束を果たせたと考えます。教室運営では、テーマとして、(1)内視鏡外科・新手術の開発、(2)低侵襲性の評価、(3)低侵襲性

外科: 3D画像アプローチ、SUS/Reolite Stent、(4)鏡視下トローニング、(5)臓器再生医療をきっかけ、小口理事長・小出学長と日る世界的リーダー、教室員目標を、日本内視鏡外科学会技術認定医取得、内視鏡外科スペシャリストとして。就任以来29名の教室員が入室し、この幸運であり、多領域での臨床・研究実施の基盤となり、教室員一同に感謝申し上げます。今後は、2020年12月に新設された「食道がんセンター」で、センター長として大事である反面、一つの筆箱に黒一色の鉛筆が集合するのではなく、全員が違

う色をもった色鉛筆になることと教室が発展することが目標でした。どこまで達成できたか疑問ですが、少なくとも昭和大学消化器・一般外科の存在を国内・外に知らしめることに貢献できたと考えます。就任以来29名の教室員が入室し、この幸運であり、多領域での臨床・研究実施の基盤となり、教室員一同に感謝申し上げます。今後は、2020年12月に新設された「食道がんセンター」で、センター長として大事である反面、一つの筆箱に黒一色の鉛筆が集合するのではなく、全員が違

私は脳神経外科の中でも血管内治療(カテーテル治療)が専門で、この領域の治療が国内で40年近く前に始まった当初からの治療に取り組みで参りました。始めた当初は、治療に伴う合併症の山で、こんな治療が世に出る可能性があるのだろうかと思いがちであるが、良き師匠(菊池晴彦先生、駒井則彦先生、故Guanji Wang先生など)、良き友人、同僚、後輩に恵まれこれとやっけて来まして。65歳という外科医としては、スエ置くべき時期ですが、血管内治療は脳神経外科の中でも発展途上にあり、今でも新しい治療法、新しい

定年退職にあたり 思うこと



成島 道昭

医学部 医学教育講座 (横浜市北部病院)

1976年昭和大学に入学してから45年余りの時が過ぎました。1982年に大学を卒業し、藤が丘病院の内科レジデントとして医師生活をスタートした訳ですが、藤が丘病院に25年間、横浜市北部病院に2006年異動し14年間お世話になりました。それぞれの開院

から67年目という比較的若く、病院に勢いのある時期を良く仲間達と共に過ごせたことは本当に幸せなことであると感じている次第です。藤が丘病院時代は呼吸器の臨床に明け暮れ、多くの患者さん、地域の医師会の先生方とも関わりを持つことが出来ました。当時はお二人の教授の下で仕事をしておりましたが、任期満了で退職し、現病院長である門倉光隆院長をはじめ3人の病院長の下で副院長職を8年間務めさせていただきました。大学主催の教育関係の行事にも数多く参加し、多くの方々と学部を超えて親しくさせていただきました。次のステップに進む身として、その経験は何物にも代えがたいものであり、感謝しかたありません。本当にありがとうございます。

最後になりますが、昭和大学の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

昭和大学 リカレントカレッジ 春期プログラム受講生募集
あなたの人生に役立つ新しい知識の色を増やしませんか?
資料請求・お問い合わせ 昭和大学リカレントカレッジ事務局 東京都品川区旗の台1-5-8 03-3784-8143
プログラムの詳細は WEBサイトへ 昭和大学リカレントカレッジ